

自然環境への環境保全措置、環境配慮状況等について

1. 主な環境保全への取り組み

騒音・振動、水質、動植物等の調査を行い、付替道路・工事中道路の整備に伴い委員会からご指導、助言を頂きながら、以下のような自然環境への環境保全措置、環境配慮の取り組みを行った。



在来種による法面緑化（施工1年後）



盛土施工時



施工6ヶ月後

地山表土を盛土法面に貼り付

○ 植物(重要種)の移植

○ 道路法面の在来種による植生復元(外来種対策)



出入口の状況



内部の状況

移動路の利用状況



○ 道路の盛土箇所にボックスカルバートを設け小動物移動路の確保



○ 工事に係る鳥類への影響低減を検討



斜路付側溝

○ 両生類、は虫類が排水路へ転落した場合を想定した這い出し用の斜路の設置

2. 環境影響に係る調査、検討状況について

ダム検証において点検対象とした変更計画(案)に関わる検討、及び環境影響に係る社会情勢の変化による主な要因と対応事項を下表に整理した。

環境要素	対応が必要となった主な要因		対応事項
水環境	○変更計画(案) ・ダム高変更	・ダム高変更に伴い、水質の定量評価を行う	・水質シミュレーションを実施
動物		・環境省第4次レッドリストの公表 ・陸産貝類を調査対象とする	・公表されたレッドリストに対応した重要種調査を実施 ・陸産貝類調査を実施
植物		・環境省第4次レッドリストの公表 ・岐阜県レッドリスト(植物)改訂	・公表されたレッドリストに対応した重要種調査を実施
生態系		・道路供用後の生息環境の変化	・モニタリング調査を実施
景観		・ダム本体の形状変更による眺望景観の変化	・眺望景観における視角の程度の変化を整理

今後、対応事項をとりまとめ、「環境影響評価と環境保全への取り組み」に反映する。